

黒毛和種肥育牛への飼料用米給与試験

配合飼料価格の高騰は、穀類多給による肉用牛肥育経営において影響が大きく、安価な飼料資源の利用技術が求められています。

そこで、飼料自給率向上に寄与するとともに、穀物の国際価格に左右されない安定的な生産体系を確立することを目的として、トウモロコシや大豆粕の代替として、地域資源である飼料用米を用いた肥育方法について検討したので、その結果を紹介します。

表1 配合飼料中のトウモロコシを飼料用米で代替給与(試験区)した黒毛和種去勢牛肥育成績

項目	試験区	対照区
出荷体重(kg)	838	834
枝肉成績(kg)	547	536
コース芯面積(cm ²)	70	63
バラの厚さ(cm)	9.3	9.1
皮下脂肪の厚さ(cm)	2.4	3.3
歩留基準値(%)	76	74
肉質等級	5	4.7
脂肪交雑(BMS No.)	9.7	8.3
格付：頭数	A5：3頭	A5：2頭 A4：1頭

試験区は、玄米を粗挽き形態で40%混合し、対照区の市販飼料に含まれるトウモロコシ全量を飼料用米で代替、対照区は、市販配合飼料としました。両試験区とも粗飼料には3cm程度に細切した稲ワラを用い、濃厚飼料と混合して無加水TMR形態で飽食給与しました。稲ワラの混合割合は肥育前期が給与飼料全体の15%、肥育後期は8%~10%としました。

その結果、黒毛和種去勢肥育牛の肥育において、市販配合飼料に含まれるトウモロコシの全量(40%)を飼料用米で代替しても、発育や肉質はトウモロコシ配合飼料と遜色なく、肥育の全期間において飼料用米を40%まで利用できることがわかりました(表1)。

(肉牛飼養研究室)